



今回は第1学年の8名が8月17日(日)～21日(木)に参加した礼文島における国際共同調査の様子についてお届けします。今回の調査は課題研究(学術研究)の先行研究事例となります。

## ◇「国際フィールドスクール・イン・礼文島」について

- 北海道大学とアルバータ大学(カナダ)が主催する1カ月間にわたる国際共同調査で、世界各地から考古学・人類学・動物学・環境科学を専攻する研究者や学生が集まりました。
- 今年は6カ国から**総勢90名**が参加。**北大、東大、慶応大、琉球大、アルバータ大(カナダ)、アバディーン大・オックスフォード大(英国)**に交じって、**関高生8名も参加**しました。
- 海岸近くの深さ3mの堆積層には、過去2千年間続いた人類活動の痕跡が残されています。この堆積層(貝塚:浜中2遺跡)の調査を通じ、長期的な気候変動や人類集団の環境適応を復元しようという壮大なプロジェクトです。



## ◇ 発掘調査に参加しました!



■ 竹べらや竹串を使っでの発掘は神経を使う作業。無数の魚骨や貝殻に交じって、土器や石器、獣骨が出土します。初めての発掘は、まさに興奮の連続です。

■ **関高生は、海獣を捕らえて生活していたオホーツク人(5～10世紀)の残した痕跡を追いま**

**した。**クジラやオットセイ、ブタ、イヌの骨とともに、様々な生活の道具を、ていねいに掘り出しました。



オホーツク人の頭骨(7世紀)

## ◇ 現地で特別講義も受講し、高い評価をいただきました!



- 忙しい調査日程の合間を縫って、**北大の先生方5名が関高生8名を対象に現地講義。**さながら「北大オープンキャンパス・イン・礼文島」でした。**講義の内容も、考古学、人類学、DNA分析、動物学と多彩。**質疑応答も盛り上がりました。
- 今回の調査に参加していた各国の研究者や学生との会話は、もちろん英語です。**自己紹介のほか、関市の刀鍛冶や鵜飼の紹介などをきっかけに、英会話にチャレンジしました。**
- 「**熱心に取り組む関高生とお話しできて、大変楽しく過ごすことができた**」(北大・増田教授)、「**非常に活発で、作業の呑み込みも早く、できることならもう少し発掘をともにしたいほど**」(慶応大院生・高橋さん)と、高い評価をいただきました。